

アビー痛みスケール(日本語版) について



群馬県立県民健康科学大学
看護学部
高井ゆかり

無断転載禁止

アビー痛みスケール日本語版



- 施設で働く看護師や介護士による認知症高齢者の痛み程度のアセスメントのために開発
- 動作時の痛みを測定するのに優れている
- 入所者の様子を観察することにより、約1～3分で測定できる。

アビー痛みスケール日本語版 (APS-J)

3

● 6項目

1. 声を上げる
2. 表情
3. ボディランゲージ変化
4. 行動の変化
5. 生理学的変化
6. 身体的変化

なし	0点
軽度	1点
中程度	2点
重度	3点

合計点:

0～2点	疼痛なし
3～7点	軽度
8～13点	中程度
14～18点	重度

(Takai et al, 2010)

1. 声を上げる



- しくしく泣いている
- うめき声を上げる
- 泣きわめいている

その他

- 不快な発声
- うなり声
- 「痛い」「いた」などの発語
- 鼻をすすり泣く

など

2. 表情



- 緊張して見える
- 顔をしかめる
- 苦悶の表情をしている

その他

- 眉をひそめる
- 眼を固くつぶる
- しわをよせる
- 悲しげな表情
- 恐れているような不安そうな表情

など

表情の変化に注目してください



The Australian Pain
Society (2005) より

無断転載禁止

痛みがある時の典型的な表情



しわがよる

眼を固く閉じて
いる

しわがよる



ほほの筋肉が
つり上がる

歯をくいしばって
いる様子

3. ボディランゲージの変化



- 落ち着かずそわそわしている 体をゆらす
- 体の一部をかばう 体をよける

その他

- 緊張したような体の動き
- うろうろ動き回る
- 突然こわばったような体の動きをする、手を固く握る
- 膝を引き寄せる
- 払いのける・叩こうとする
- 足をかばって歩く
- 体の一部をさする など

*ボディランゲージとは、「身振りなど、体を動かして考えや感情を伝達すること」(カタカナ辞典)

痛みのボディランゲージの例



4. 行動の変化



- 混乱状態の増強
- 食事の拒否
- 通常の状態からの変化

その他

- 怒る
- ケアの拒否
など

* 行動とは、
「実際に体を動かして、
あることを行うこと。
おこない。」(大辞泉)

5. 生理学的変化



- 体温、脈拍または血圧が正常な範囲外
 - 発汗
 - 顔面紅潮または蒼白
- その他
- ため息をつく
 - 息づかいが荒くなる など

*この場合の「生理学的変化」とは、生きていくためのからだの働き(呼吸、循環、体温、代謝など)のことです

*体温、血圧等は観察時に測定していたときのみ参考とする

6. 身体的変化



- 皮膚の損傷
- 圧迫されている局所がある
- 関節炎
- 拘縮
- 傷害の既往（最近の骨折やけが）

その他

- 麻痺がある

など



これで終わりです。

問い合わせ先

yukaritakai@gchs.ac.jp